（1）主題名　　責任・誠実さ〔中学校　１－（３)〕
（2）ねらい　　自分の行動に責任を持ち，誠実に行動しようとする態度を育てる。
（3）資料名　　「歩き続けて」（出典：生きる力１　大阪書籍）

資料の概要
息子（隆人）が万引きをし，父親とともに謝罪して歩くという内容である。父親は万引きしたことを反省していない息子を連れて，謝罪に行くが，１軒目の店はあっさり許してくれ，隆人はにんまりと笑う。しかし，残りの３軒は１軒目とは全く異なっていた。ののしられている父の姿に，隆人はくやしさ，みじめさを感じ始める。

（4）学習指導過程

	学　習　活　動	主な発問と生徒の心の動き	留　意　点
導入	1「心のノート」P34（「自分を見つめる」といった内容）を黙読する。	○自分の心をじっくり見つめてみよう。	○自分の心の姿勢を考えさせる。
展開	2　資料の前半を読んで主人公の心情を考える。	○隆人は，最初の店で謝った時，どんな気持ちだったか。 ・謝りさえすればいい ・たいしたことはない ・こんなものか ・さっさと終わらせたい	○後半部分で共感させるためにも，主人公への怒りをもたせる。
	3　資料の後半を読んで主人公の心情を考える。	○隆人の顔から笑顔が消えたのはなぜだろうか。 ・父がバカにされて腹が立ち始めたから ・多くの人に見られて，自分のやったことの意味に気付いたから	○主人公の気持ちの変化に気付かせる。
		◎歩み続ける父の姿を見ながら，隆人はどんなことを考えたのだろうか。 ・お父さん，なんで黙ってるんだ ・本当に悪かった ・お父さんごめん ・父に頭を下げさせた自分に対しての後悔と憤り	○自分の行動を振り返った主人公に共感させる。
終末	4　主人公に共感しながら日記を書く。	○あなたが隆人だったら，その日の日記にどんなことを書くだろうか。 ・お父さんにみじめな思いをさせて申し訳ないと思った ・どんなに謝っても取り返しのつかないことをしてしまった ・父が僕のために頭を下げているのは悔しい	○自分の思いを素直に表現させる。

実践報告にみる留意事項

１　資料・題材について

本資料には万引きをした息子を連れて店へ謝りに行き，ののしられ，それでも何も言い返さない父の姿がある。しかし，実際の場面では，この資料のように親が自分の姿勢を通して我が子の誤りを正す行動ができているとは限らない。そこで本資料の父の姿を通じて，自分の行動を見つめさせ，責任を持ち誠実に行動しようとする態度を育てたいと思った。

２　指導過程の工夫

各クラスで，資料提示の方法を変えた授業を試みた。その方法の一つは資料の一括提示である。資料の一括提示を行ったクラスでは，最後の場面での，主人公の心情への共感に深まりが出た。しかし，前半部分の主人公の心情に対して自分の思いを持つことが難しく，主人公の心の変容への共感は難しかった。

一方，資料を分割提示したクラスでは，前半で主人公への怒りをもたせることで，後半での主人公への共感に深まりがでた。

終末においては，どちらの展開でも自分を主人公に置き換えて日記を書かせる活動を行った。日記という形式をとることで，決まりきった感想ではなく，自分なりの考えをもつことができた。

３　発問の工夫

ストーリーの段階を追って，主人公の心情について発問を行った。

主人公の表情に注目し，笑顔が消えていくという明らかな変化から，心情の変化を対比的に捉えさせることができた。

中心発問を「父親の姿を見て，どう思ったか」というものにした。具体的な場面をイメージさせた上で自分の考えを持たせる工夫を行うことで，他人事ではなく，「自分だったら・・・。」という立場にたたせることができた。

４　生徒の反応

長い教材であったが，自分のこととして実感的にとらえ，しっかりと内容を捉えることができていた。

- 父が僕のために頭を下げているのは悔しい。
- こんな気持ちになるのはこりごりだ。
- 本当に悪いことをした。なぜこんなことをしてしまったのだろうか。父のあんな情けない姿は二度と見たくない。だから，もうこんな事はしない。
- 自分のために一生懸命謝ってくれている父に申し訳ない。
- どんなに謝っても取り返しのつかないことをしてしまった。

５　授業後のフォローアップ

生徒の意見や思いをすべて交流するのは難しかったが，授業後の教室掲示や学級通信等で紹介した。

実際に似たような状況を体験した生徒が発言をすることがあった。その生徒に対して，授業後に担任より発言したことを評価した。そして帰りの会で，取り返しのつかない事をした教師の経験を話し，フォローを行った。

（吉田中学校）